

令和2年度 専攻科食物栄養専攻

自己点検・評価報告書

令和3年3月

富山短期大学 専攻科食物栄養専攻

令和2年度 専攻科食物栄養専攻 自己点検報告書

1. 建学の精神 (他部局で記載のため省略)

2. 地域・社会貢献

1) 根拠資料

01. 富山短期大学地域連携活動年報

02. 本学ウェブサイト地域・社会貢献に関する記事①

<https://www.toyama-c.ac.jp/news/001126/html>

03. 本学ウェブサイト地域・社会貢献に関する記事②

<https://www.toyama-c.ac.jp/news/001267/html>

04. 富山短期大学・魚津漁業協同組合連携事業－富山県未利用魚を活用した料理の開発
－ 令和2年5月)

2) 現状

①下記の活動を実施して地域・社会に貢献している。

・公開特別講演会を毎年1回開催し、県内栄養士および管理栄養士等の実践力向上への貢献に努めている。なお、令和2年度はコロナ禍により予定していた特別講演会は中止となった。

・多くの専任教員が、県内市町村主催の研修会等の講師として協力している。

(富山短期大学地域連携活動年報、地域・社会貢献に関する記事①)

②教員と学生が地元企業と協力し食育活動を行うなど、積極的に地域社会に貢献している。(本学ウェブサイト地域・社会貢献に関する記事②)

3) 課題

①公開特別講演会では、変化していく現場の栄養士および管理栄養士の要望を的確に把握し、テーマに反映していくことが求められている。

②県内市町村主催の研修会等で講師を務める為に、現場の要望を的確に把握すると共に最新の知見についても学んでいく必要がある。

③新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、学生が負担なく地域貢献活動に参加することができる仕組みを考える必要がある。

4) 特記事項

①県内漁業協同組合と産学連携協定を締結し(2019年より3年間)地域社会の発展に貢献している。(富山短期大学・魚津漁業協同組合連携事業)

5) 改善計画

①公開特別講演会は新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、近年注目されているタンパク質およびアミノ酸の摂取に関わる内容で9月に実施する。

②県内市町村主催の研修会等の講師を可能なかぎり継続して引き受ける。

③SNSを活用する等、学生が負担なく地域貢献活動に参加することができる仕組みを考える。

3. 教育目標

1) 根拠資料

05. 専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー

06. 学生のしおり 令和2年度版

07. 本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要

<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/edures.html>

08. 令和2年度食物栄養専攻卒業生の就職状況について

09. 令和2年度卒業生の状況報告書集計

2) 現状

①専攻科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき次のように確立している。「専攻科食物栄養専攻においては、健康と食生活に関する高度な専門の知識や技術、総合的な判断力や豊かな人間性を併せ持つ管理栄養士をめざす人材の養成を目的として、栄養指導、栄養管理等に関する教育及び研究を行う。」（専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー）

②専攻科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生のしおり」に記載し、学内外に表明している。学生生活のしおり（学生のしおり P.128-129、本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要）

③毎年5月前後に卒業生の就職先を訪問および郵送によるアンケート調査して、卒業生の様子を確認するとともに現場が求める人材を把握した上で学科会議でも情報を交換し、教育目的及び目標が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。なお、令和2年度はコロナ禍により就職先に訪問は行わず、電話での聴取を行った。（令和2年度食物栄養専攻卒業生の就職状況について、令和2年度卒業生の状況報告書集計）

3) 課題

①教育目的及び目標において、建学の精神の全体を表現しているかが分かりにくくなっている。建学の精神との関係性が明瞭になるような、表現に変える必要がある。

②教育目的及び目標に関し、人材養成の目的の中に含めて学生が認識できるように努める。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

①次年度から、ディプロマポリシーの一部を明瞭な文章に変更予定である。

4. 学習成果

1) 根拠資料

05. 専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー

06. 学生のしおり 令和2年度版

07. 本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要

<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/edures.html>

10. Webシラバス

11. 授業改善レポート

12. 授業アンケート結果

2) 現状

- ①学習成果を、建学の精神および専攻科の教育目的・目標に基づき定めている。(専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー)
- ②学習成果を、「学生のしおり」に記載し、学内に表明している。(学生のしおり P.128-129) また、同様の内容をホームページにおいて学外に表明している。(本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要)
- ③各科目における学習成果は、Webシラバスシステムにおいて学修成果別評価基準(ルーブリック)として学内に示している。(Webシラバス) 同様の内容をホームページにおいて学外に表明している。(本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要)
- ④学生の学習成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。(授業改善レポート) また、Webシラバスシステムを利用して、学生に毎時間及び各期末に「授業アンケート」を実施し、学生による学習成果の自己評価を数値化して、授業改善に生かしている。(授業アンケート結果)

3) 課題

- ①専攻科としての能力基準別到達目標(学修成果)の内容に不明瞭な点が見られる。
- ②「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。
- ③学習成果をさらに明確なものにする。一層、具体的で、一定期間内で獲得可能、測定可能なものにするように努めることが必要である。
- ④学習成果の獲得を評価・判定する仕組みを定める。さらには、評価・判定した結果をフィードバックする仕組みを定めることが必要である。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①次年度から、能力別到達目標(学修成果)の一部を明瞭な文章に変更予定である。
- ②「学修成果別評価基準(ルーブリック)」で良いと思われる記載事例を積極的に紹介し、改善につなげる。

5. 三つの方針

1) 根拠資料

05. 専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー
06. 学生のしおり 令和2年度版
07. 本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要
<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/edures.html>
12. 授業アンケート結果
13. 令和2年度 第5回 教務委員会 議事録

2) 現状

- ①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定している。(専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー)
- ②三つの方針は毎年度末に学科会議および教務委員会で議論し、見直しを図っている。(第5回 教務委員会 議事録)
- ③三つの方針を踏まえた教育的活動を行っており、各年度の前期末及び後期末に、「授業アンケート」の記入を学生に求めて、「三つの方針」の達成状況を確認している。(授業アンケート結果)

- ④三つの方針を、「学生のしおり」に記載し、学内に表明している。（学生のしおり P.128-129）また、同様の内容をホームページにおいて学外に表明している。（本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要）

3) 課題

- ①授業アンケートの項目が多いため回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。
- ②管理栄養士の社会的ニーズは高まっているが、ニーズが多様化・専門化している。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①教務部と協議してアンケートの方法を見直し、回答率が上がる方策を考える。
- ②地域で活躍できる管理栄養士の育成のために、三つの方針に沿った教育を実施する。

6. 内部質保証

1) 根拠資料

07. 本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要

<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/edures.html>

10. Webシラバス

14. 令和2年度 専攻科教育課程懇談会 議事録

2) 現状

- ①学内の自己点検・評価委員会と連動して、内部質保証に取り組んでいる。
- ②Webシラバスシステムを導入して、授業ごと及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。（Webシラバスシステム）
- ③毎年度末に、専攻科の活動を科内会議で総括して「自己点検・評価報告書」を作成している。（本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要 自己点検・評価報告書）
- ④毎年度末に、すべての専攻科の専任教職員および非常勤講師において「教育課程懇談会」を実施し、専攻科の教育課程について検討している。（令和2年度 専攻科教育課程懇談会 議事録）
- ④外部評価委員会の場で自己点検・評価活動を報告し、高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。
- ⑤報告書では現状・課題を踏まえて次年度への改善計画も記しており、積極的に改革改善に活用している。

3) 課題

- ①日常的な自己点検・評価の方法を工夫する必要がある。
- ②建学の精神、教育目的・目標、学習成果、三つの方針、内部質保証の項目に関しては、「内部質保証ルーブリック」で、さらに上のレベルを目指す。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①日常的な自己点検・評価の方法を学ぶ機会をつくる。

7. 教育の質

1) 根拠資料

- 10. Webシラバス
- 15. 教育課程改善レポート
- 16. FD 研修会実施記録
- 17. R2 年度 食物栄養学科・専攻科 ミニ FD 実施記録

2) 現状

- ①Webシラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、学習成果を可視化し査定する手法を取り入れている。(Webシラバス)
- ②毎年、成績の分布や授業アンケートの結果を分析して、「授業改善レポート」を作成し、査定の手法を点検するとともに、教育の質向上に活用している。(授業改善レポート)
- ③FD 研修会における授業改善報告会の実施や、授業改善事例集の作成を通して、教育の向上・充実に努めている。(FD 研修会実施記録)
- ④教務部を通じて関係法令の変更等をメールや回覧で確認しており、法令を遵守している。

3) 課題

- ①授業アンケート結果をみると、学習成果に関わる自己評価・満足度が低い科目もある。アンケート結果を踏まえての授業改善が望まれる。
- ②科目を変更した際でも、変更前の科目の積み上げてきた「授業改善レポート」の内容を参考にする必要がある。

4) 特記事項

- ①専攻科独自にミニ FD を開催し、専攻科内の教員の意識の向上を行っている。(食物栄養学科・専攻科 ミニ FD 実施記録)

5) 改善計画

- ①各教員に授業アンケートの結果を踏まえての具体的な改善策を求め、授業アンケートでの満足度の向上をめざす。
- ②次年度から、教育課程の一部を変更する予定であるため、変更前の科目のこれまでの授業改善の取り組みを後継科目の実施の参考にする。

8. 学位授与方針

1) 根拠資料

- 06. 学生のしおり 令和2年度版
- 07. 本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要
<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/edures.html>
- 08. 令和2年度食物栄養専攻卒業生の就職状況について
- 09. 令和2年度卒業生の状況報告書集計
- 13. 令和2年度 第5回 教務委員会 議事録
- 18. 令和2年度 専攻科学位授与申請状況

2) 現状

- ①専攻科の修了認定の方針は、学習成果に対応している。(学生のしおり P.128-129)
- ②専攻科の修了認定は、修了の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も明確に示している。(学生のしおり P.128-133)

- ③学位取得（学士（栄養学））は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による審査を受けるように指導している。試験方法は、入学オリエンテーションの際に同機構発行「新しい学士への道」を配布して詳しく説明している。（学生のしおり P.135）
- ③毎年5月に卒業生の就職先を訪問して、卒業生の様子を確認するとともに学生の就職先が求める人材を把握した上で学科会議でも情報を交換し、専攻科の修了認定方針が地域社会のニーズにマッチしているかを点検している。（令和2年度食物栄養専攻卒業生の就職状況について、令和2年度卒業生の状況報告書集計）
- ④修了認定の方針は毎年度末に学科会議および教務委員会で議論し、見直しを図っている。（第5回 教務委員会 議事録）

3) 課題

- ①修了認定の方針に定めた管理栄養士を育成する観点においては、厚生労働省の事業において策定された「管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」を参考に、学習成果にも反映させていく必要がある。

4) 特記事項

- ①過去5年の専攻科生の独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への学位授与申請率は100%となっている。（専攻科学位授与申請状況）

5) 改善計画

- ①次年度から、修了認定の方針に定めた管理栄養士を育成するという観点に基づき、能力別到達目標（学修成果）の一部を変更する予定である。

9. 教育課程編成・実施の方針

1) 根拠資料

- 06. 学生のしおり 令和2年度版
- 10. Webシラバス
- 14.令和2年度 専攻科教育課程懇談会 議事録

2) 現状

- ①専攻科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に対応している。（学生のしおり P.128-129）
- ②専攻科の教育課程の編成は、教育課程編成・実施の方針に従っている。（学生のしおり P128-133、Webシラバス）
- ③教育課程の見直しについては、科内会議で定期的に行うとともに、年度末に「教育課程懇談会」を開催して、非常勤講師からも意見を聴取している。（教育課程懇談会議事録）

3) 課題

- ①独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める認定専攻科として再認定を受けるための教育課程の編成及び教育体制を維持する必要がある。
- ②すべての学生が一定以上の能力をもった管理栄養士を育成するために、課程の見直しも必要になっている。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める特例が適用される認定専攻科の申請を行い、専攻科の教育課程編成・実施状況を客観的に判断する。

10. 幅広く深い教養

1) 根拠資料

- 06. 学生のしおり 令和2年度版
- 10. Webシラバス
- 12. 授業アンケート結果

2) 現状

- ①短期大学設置基準にのっとり、専門科目以外に関連科目を編成し、実施体制も確立している。また独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める認定専攻科の要件を満たし、認定を受けている。(学生のしおり P.130-133)
- ②「教育課程編成図」を作成して、関連科目と専門科目の関連性を明確にしている(Webシラバス)
- ③関連科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。(授業アンケート結果)

3) 課題

- ①現在開講中の関連科目の分野に偏りがある。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①関連科目の見直しを検討する。

11. 職業教育

1) 根拠資料

- 06. 学生のしおり 令和2年度
- 10. Webシラバス

2) 現状

- ①Webシラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、職業教育の効果を評価し、改善に取り組んでいる。(Webシラバス)
- ②「栄養士総合特別演習」授業科目において、臨床栄養学学外実習や公衆栄養学学外実習において、各自が実習の目的を達成することができるよう、実習施設担当者および各教科の担当者と連携し、実習に向けて指導を行っている。(学生のしおり P.139)
- ③臨床栄養学学外実習終了後に、実習先の指導者の方との「実習懇談会」を設け、実習における様子や管理栄養士に必要な資質能力についての意見交換をしているが、今年度はコロナ禍により報告会資料の送付のみとした。

3) 課題

- ①専門職就職率はほぼ100パーセントに近いが、何人かは一般職に就職する。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①キャリアデザイン記入表を活用して管理栄養士の仕事についての理解を深めるとともに、自身の将来像をイメージしやすくし、専門職への就職へつなげる。

12. 入学者受入れ方針

1) 根拠資料

- 05. 専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー
- 19. 令和3年度 学生募集要項

2) 現状

- ①専攻科の入学者受入れの方針は学習成果に対応している。(専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー)
- ②学生募集要項に専攻科の入学者受入れの方針を明確に示している。(学生募集要項表紙裏面)
- ③入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。(学生募集要項表紙裏面)
- ④入学者選抜の方法は、入学者受入れの方針に対応している。(学生募集要項表紙裏面)

3) 課題

- ①入学者受入れの方針に対し、入学者選抜の方法に多様性を持たせる余地がある。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①本学食物栄養学科の卒業生を対象とした、新規の入学者選抜方法も検討する。

1 3. 明確な学習成果

1) 根拠資料

05. 専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー

10. Webシラバス

2) 現状

- ①専攻科の学習成果は具体的にカリキュラムと対応させて示している。(専攻科食物栄養専攻の教育理念・目標と3つのポリシー) Webシラバスで各科目において学修成果別評価基準(ルーブリック)を記載して、学習成果の具体化及び測定可能化を図っている。(Webシラバス)

3) 課題

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①「学修成果別評価基準(ルーブリック)」で良いと思われる記載事例を積極的に紹介し、改善につなげる。

1 4. 学習成果を測定する仕組み

1) 根拠資料

06. 本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要

<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/edures.html>

20. 学修行動・生活調査結果

21. 専攻科卒業時アンケート

2) 現状

- ①教務部でWebシラバスシステムを管理しており、学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。
- ②Webシラバスシステムを用いた「学修行動・生活調査」を活用している。(学修行動・生活調査結果) また、専攻科独自で卒業時アンケート調査をしている。(専攻科卒業時アンケート)

③学修行動・生活調査の結果を本学ウェブサイトにて公表している。（本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要 自己点検・評価報告書）

3) 課題

①授業アンケートの項目が多いため回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

①教務部と協議してアンケートの方法を見直し、回答率が上がる方策を考える。

15. 学習成果を可視化する指標

1) 根拠資料

07. 本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要

<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/edures.html>

22. 第57回卒業式次第

2) 現状

①就職支援センターで資格取得率や専門職就職率等を調査し、公表している。（第56回卒業式次第）

②教務部で「授業アンケート」の結果を公表している。（本学ウェブサイト 教育研究活動等の概要）

3) 課題

①授業アンケートの項目が多いため回答しない学生がおり、アンケート項目の見直しが必要である。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

①教務部と協議してアンケート項目を見直し、回答率が上がる方策を考える。

16. 卒業後評価への取り組み

1) 根拠資料

08. 令和2年度食物栄養専攻卒業生の就職状況について

09. 令和2年度卒業生の状況報告書集計

2) 現状

①学科教員が毎年5月前後に卒業生の就職先を訪問して評価を聴取し、学習成果の点検に活用している。今年度はコロナ禍により就職先には電話での聴取を行った。

（令和2年度食物栄養専攻卒業生の就職状況について、令和2年度卒業生の状況報告書集計）

3) 課題

①訪問時期が早いため、評価が不十分な場合もあるため、6月前後での実施を検討する。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

①就職先訪問または新型コロナの感染状況によっては電話での聞き取りを継続し、卒業生の状況を把握する。

- ②調査時期を5月前後から6月前後に変更し、より正確な評価を聴き取りに努める。
- ③聴取した評価内容をまとめ、専攻科内で情報共有をし、今後卒後に必要な能力の強化を図る。

17. 教育資源の有効活用

1) 根拠資料

- 06. 学生のしおり 令和2年度版
- 10. Webシラバス
- 12. 授業アンケート結果
- 23. R2年度 学年始行事予定表
- 24. R2年度 専攻科生学会発表・担当指導教員一覧

2) 現状

- ①教員は学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。Webシラバスシステムを利用して成績や授業アンケートを分析し、授業改善レポート等を作成して授業改善を心掛けている。(Webシラバス、授業アンケート結果)
- ②クラス担任制をとり、クラス担任が学生の履修および卒業に至る指導を行う。(学生のしおり P.143,162)
- ③専攻科の事務職員もクラスの副担任として学生の学習支援に取り組んでいる。
- ④専攻科の専任教員が、入学時から学生のコンピュータの設定などを補助し、学生が校内でコンピュータを利用できるようにしている。(学年始行事予定表)
- ⑤専攻科の学生が、クラス専用のプリンタ等の設備を有するクラスルームを活用できるようにしている。

3) 課題

- ①学生の利用するパソコンを指定していないため、設定を個別に行う必要があり、教職員の負担が大きい。

4) 特記事項

- ①学生の県外への旅費を授業支援事業の予算に計上し、「特別研究」において得られた学習成果を所属学会の学術大会において発表することを推進している。(専攻科生学会発表一覧)

5) 改善計画

- ①学校の推奨パソコンの使用を検討する。

18. 学習支援

1) 根拠資料

- 06. 学生のしおり 令和2年度版
- 10. Webシラバス
- 23. R2年度 学年始行事予定表
- 24. R2年度 専攻科生学会発表・担当指導教員一覧

2) 現状

- ①入学者に対し、学習、学生生活のためのオリエンテーションを行っている。(前期オリエンテーション日程)

- ②毎週実施するホームルームにおいて、担任より学習の動機づけに焦点を合わせた学習の方法をガイダンスしている。（時間割）
- ③学習成果の獲得に向けて「学生のしおり」などを作成し配布している。（学生のしおり）また、Webシラバスシステムを利用して、学生が自分の学習成果をレーダーチャート等で可視化して分かるようにして学習支援の整備を図っている。（Webシラバス）
- ④クラス担任制をとり、学習上の悩みなどの相談に乗る体制をとるとともに、GPAが低い等の基礎学力が不足している学生には適宜指導を行っている。（学生のしおり P.10,143,162）
- ⑤Webシラバスシステムを利用することで、学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。（Webシラバス）

3) 課題

- ①優秀な学生に対する学習上の配慮は十分行われていない。

4) 特記事項

- ①（独）大学改革支援・学位授与機構による学位の取得にむけたレポートの作成、および小論文試験の対策には、「特別研究」において指導を行った教員がサポートを行っている。（専攻科生学会発表一覧）

5) 改善計画

- ①学力の違いに応じた多様な学習支援の方法を検討する。

19. 生活支援

1) 根拠資料

- 03. 本学ウェブサイト地域・社会貢献に関する記事②

<https://www.toyama-c.ac.jp/news/001267/html>

- 06. 学生のしおり 令和2年度版

2) 現状

- ①クラス担任制をとり、クラス担任が学生の学生生活に対する支援を行っている。（学生のしおり P.162）学生支援課と連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。
- ②学生ホールで開催されている“ちょっこおいでまこども食堂”や児童福祉施設で、専門性をいかした食育指導や保護者相談活動のボランティアに参加している。（本学ウェブサイト）

3) 課題

- ①コロナ禍の影響もあり、カウンセリングや経済的な支援を必要とする学生が増えてきている。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①学生支援課との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速な対応を継続する。

20. 進路支援

1) 根拠資料

- 25. R2年度 進路指導計画（専攻科）

- 26. R2年度 専攻科キャリアデザイン記入表

2) 現状

①就職支援センターとの連携により、積極的に進路支援を行っている。
(進路支援計画)

②キャリアデザイン記入表を作成し、管理栄養士としての将来について具体的に考え、行動できるよう支援している。(キャリアデザイン記入表)

3) 課題

①研究生制度の導入により、学生の希望を把握しつつ一層きめ細かい指導が必要になってきている。

②国家試験の勉強と就職活動を両立することが難しそうである。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

①担任と特別研究の担当教員、就職支援委員との連携を密にして、個別指導の必要な学生への指導を充実させる。

②専攻科入学前からキャリアプランを考え、自身の進むべき道を明確化する。

③臨地実習を終えた後、キャリアデザイン記入表を見直すことで将来像をより明確化し、就職活動と国家試験の時期を考えて行動ができるように支援する。

2 1. 健康支援

1) 根拠資料

06. 学生のしおり 令和2年度版

2) 現状

①学生支援課や健康支援センターとの連携により、早期からの課題発見に努め、対応を検討し支援している。(学生のしおり P.161)

②学科内では、入学時から担任が適時、面談やアンケートを行って問題を把握し、適時、保護者とともに心身の健康をサポートしている。(学生のしおり P.162)

③体調の不安は早期に把握し対応することが大切なので、新型コロナウイルス感染症以外の理由での遅刻や欠席は速やかに専攻科や担任が連絡を受け、状況把握に努めている。

3) 課題

①1年実務の期間に免疫力が低下し、抗体価が減少している学生が多くなってきている。結果を把握し、学生生活や臨地実習に支障がないように早期から呼びかけが必要である。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

①健康支援センターと連携を密にして、健康課題の早期把握と対応に努め、個別指導の必要な学生への指導を充実させる。

②着実に授業を受け、学力・技術・人間力を身につけて、社会で活動することへの不安をやわらげ、学位取得と管理栄養士国家試験の合格を目標として指導に当たる。

(22～24の点検項目は他部署で記載のため省略)

25. 教員組織

1) 根拠資料

- 06. 学生のしおり 令和2年度版
- 27. 富山短期大学諸規程

2) 現状

- ①専攻科の教員組織が編制されており、所属する専任教員は、教授3名、准教授3名、講師5名および助手4名の計15名である。また、兼担の教員は、教授2名、准教授1名であり、非常勤講師11名を配置している（学生のしおり P.127）。短期大学設置基準別表第一（第22条関係）に定める専任の教員数6名および教授2名の規定を満たしている。
- ②専任教員の職位については、真正な学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学設置基準の定める基準に準拠し、「富山短期大学人事委員会規程」、「富山短期大学教員選考規程」および「富山短期大学教員選考規程細則」を定め、適切に運用している。教育課程編成・実施の方針に基づいて、上記のとおり専任教員と非常勤教員（兼任・兼担）を配置している（学生のしおり 127頁）。
- ③非常勤教員の採用は、学位、研究業績、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を準用して行っている。教育課程編成・実施の方針に基づいて助手4名を配置している（学生のしおり 127頁）。
- ④教員の採用、昇任は、「富山短期大学人事委員会規程」、「富山短期大学教員選考規程」および「富山短期大学教員選考規程細則」に基づいて行っている（富山短期大学諸規定）。

3) 課題

- ①令和3年度においては、教授が3名のうち2名がすでに定年を迎えていることから、近い将来において教授の人数が不足する可能性がある。

4) 特記事項 無

5) 改善計画

- ①教授の数が不足しないように、採用および昇任について計画的に進める。

26. 教育研究活動

1) 根拠資料

- 06. 学生のしおり 令和2年度版
- 16. FD 研修会実施記録
- 24. R2年度 専攻科生学会発表・担当指導教員一覧
- 27. 富山短期大学諸規程
- 28. R2年度食物栄養学科・専攻科食物栄養専攻 教育研究活動実績
- 29. 令和2年度 コンプライアンス研修案内
- 30. 富山短期大学紀要 57巻
- 31. R2年度前期専攻科教職員時間割
- 32. R2年度後期専攻科教職員時間割
- 33. 動物実験等に関する情報公開（R3年6月公開版）

2) 現状

- ①専任教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。（R2 年度教育研究活動実績）また、「特別研究」において所属学生とともに得た研究成果を、所属学会において発表している。（専攻科生学会発表一覧）
- ②専任教員は、科学研究費補助金、外部研究費等を獲得している。（R2 年度教育研究活動実績）
- ③「富山短期大学倫理綱領」、「富山短期大学倫理委員会規程」、「富山短期大学動物実験委員会規程」専任教員の研究活動に関する規程に基づき研究活動を行っている。（富山短期大学諸規程）
- ④研究倫理を遵守するための取組みに専任教職員は参加している。（コンプライアンス研修案内）
- ⑤専任教員は、本学紀要や学長裁量費報告会等の本学の研究成果を発表する機会において発表を行っている。（富山短期大学紀要、FD 研修会実施記録）
- ⑥専任教員が研究を行う研究室を整備している。（学生のしおり P.166-169）
- ⑦専任教員の研究、研修等を行う時間を確保している。（R2 年度前期専攻科教職員時間割、R2 年度後期専攻科教職員時間割）

3) 課題

- ①特別研究の指導に膨大な時間を要する。その一方でゼミごとに、所属する学生数に差があり、負担が偏っている。会議が書類作成の業務が増大する傾向にあり、教育研究活動にかかる時間が確保できないことがある。

4) 特記事項

- ①動物実験に関する自己点検・評価結果および実験動物の飼養保管状況を作成している（動物実験等に関する情報公開）

5) 改善計画

- ①ゼミごとの所属学生数を均等にする。教育研究活動の時間を確保するため、科内会議の時間短縮を目指す。

（27～38の点検項目は他部署で記載のため省略）